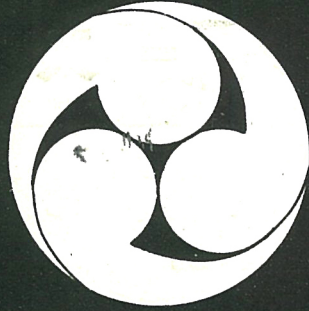


滿洲建築協會雜誌

第十三卷 第二號



故小野木會長追悼號

社團法人滿洲建築協會發行

昭和九年二月十五日發行(每月一、四、七、十、十三、十六、十九、二十二、二十五日發行)

ホロータイル

フェイスブリック

礦滓カッタ

舗道煉瓦

スクラッチタイル

カッタタイル

機械製煉瓦

普通煉瓦

專賣特許
鐵筋煉瓦

營口煉瓦製造所

大連工場

大連市管内西山會三春柳一

電話九〇九七番

周水工場

大連市管内周水屯周家屯

大連出張所

大連市越後町二八

電話三九〇五番

馬車配給所

大連市財神街三

電話七七五八番

故小野木會長追悼號 目次

版

故小野木會長近影

故人を語る遺影

故人の作品

故人の絶稿と絶筆

葬祭記念撮影

文

故人經歷

臨終記

葬祭記

弔辭

追悼辭

故入文章目錄

編輯記

(目次裏)

1

5

6

9

18

82

編輯記

〔當編輯部が此の特輯發行に關する企圖を表示するや、遠近より稿を寄せらるゝもの四十有餘に達し爰に略々當初の豫想を實現し得たることを喜ぶものである。〕

〔殊に中川、山田、大井田、中目、清水、目瀧、埜、一ノ瀬等の諸賢よりは、今は既に極めて貴重なるものとなつた故人に中緒ある寫眞や筆蹟等を寄せられたことは、故人一生の各時代に就いて、讀者の聯想を消遣を豊かならしむる上に絶好の資料となり、之によつて此の特輯の意義を完することが出来て眞に感謝に堪へざるどころである。唯恨むらくは既に長き年所を閲して印影頗る不鮮明となり、爲に製版不可能にて二三割愛の止むなきに到つたことである。茲に記して該寄稿者各位に深謝するものである。〕

〔建築家として、其の生涯を終始せられたる故人を追悼記念する爲の特輯としては、其の作品、遺稿等の紹介に於て頗る貧しいものに終つたことは、全く各位の期待を裏切つたものゝ如くになつて、遺憾の上もなき次第であるが、之は要するに故人の建築家としての生涯の最も主要な部分が満鐵建築課長としての時代であつて、明治四十年滿鐵の創業當時より大正十二年高階勇退に至る迄の十七年間は滿鐵會社が最も盛に建築施設に投資したる時代であつて、故人は全線に互る責任者として、終始し、常に多數の部下を指揮監督せらるゝ立場に在りたるを以て、當時の建築施設の殆んど凡有ものが故人の責務を含むものであつたと謂ふことは出来るが、同時に亦之が故人の作品として紹介すべきものが殆んど皆無であつたからである。彼の大連醫院の如きは故人が建築課長として埜尾の奉公とも見るべきものであつたに不拘敢て之を故人の作品であるとして紹介し難きが如くである。建築事務所自營時代に於ても亦同様の關係がある。唯爰に故人の臺灣總督府技師時代に於ける作品として、當時の部下たりし尾汁氏より現存四五の建物に關する寫眞を提供せられたることは誠に望外の仕合であつた。仍つて故人が晩年自ら計畫せられた自邸のスケッチ其他二三の住宅スケッチを其のノートの中より選拔し併せて故人の作品として掲載することにしたのである。〕

〔故人は所謂一杯氣嫌で談論することは最も好むところであり、明論卓説呑海吐虹の慨あるもの屢々であつたが、ペンを取つて文章に表はすことは其の立場の然らしめたる關係もあらうが、概して好むところではなかつたらしい。而も一度書かれた文章は其の文字に於て熟語に於て修辭に於て語法、文法等に於ても相當行届いた識見と技巧とを有つてゐられたことは、技術家出身の士としては寧ろ稀れに見る熟達な文章家であつたと謂ひ得るであらう。〕

〔従つて、此の機會に於て出来得る限り故人の文章にして既に發表せられたるものは之を目録の中に、其の發表せられたるは之を遺稿として行届いた紹介をし度いと希望したのであるが、共に資料を得るに至難であつた爲め、只本協會誌の創刊以來最近に至るまでのものにつき其の目録を記し併せて茶葉會誌に於けるものを附記する程度に止めざるを得なかつた。〕

〔かくして、其作品及遺稿、文章目録等に於て當初の期待に對して甚だ不満足な結果に終つたことは遺憾であるが、之れ畢竟故人の生涯と、性格が然らしめたるもので、本來其の資料が乏しかつたのによるものであることを諒解せられ度い。〕

〔尙本號に限り會報掲載を見合せたれば此段も諒解を願ふ。(石田生)〕



故 小 野 木 會 長